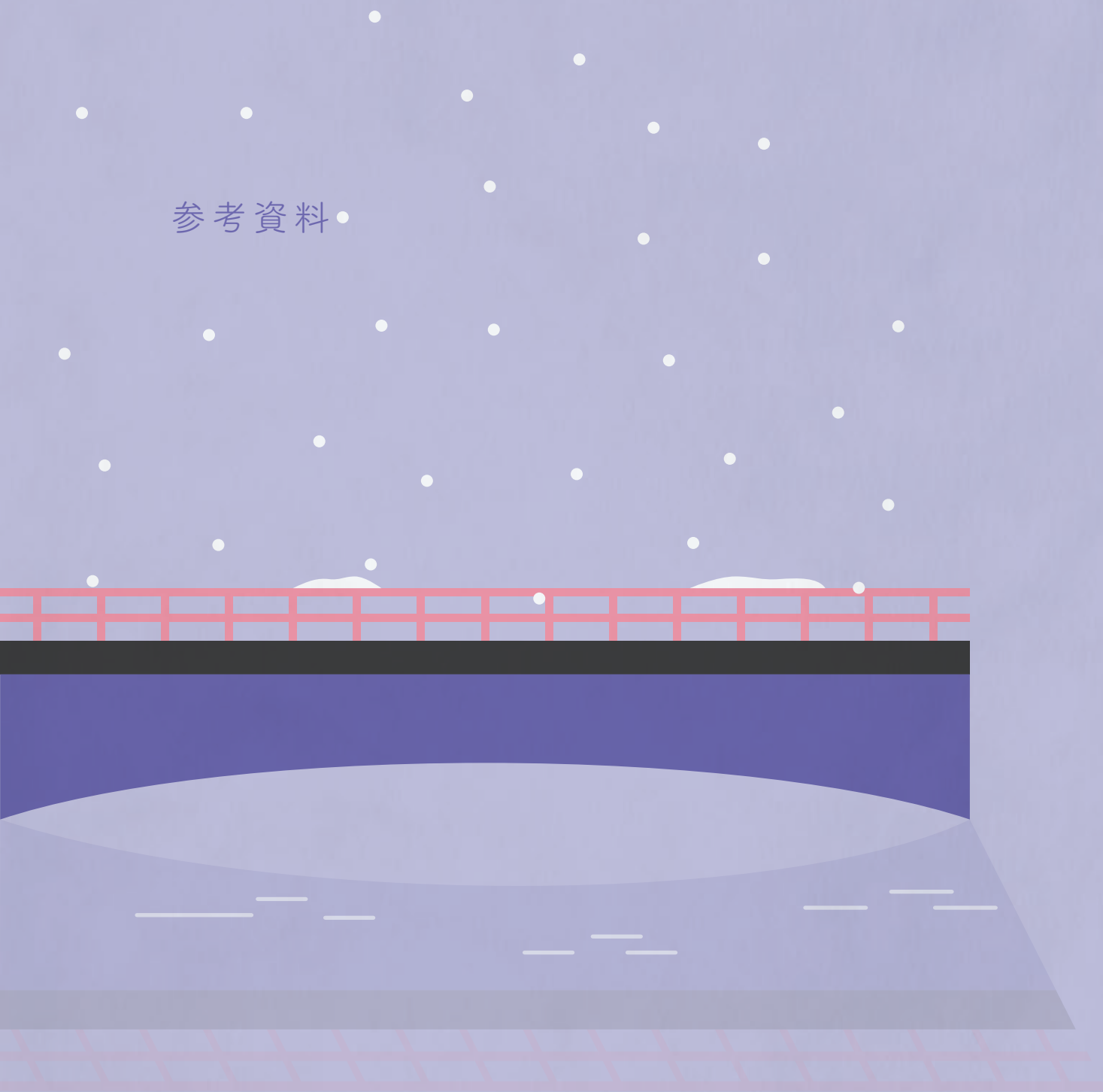


参考資料





平成30年1月31日

大湊村長 高橋 浩人 様

大湊村審議会  
会長 大内 一弘

**第2期大湊村総合村づくり計画の策定について**  
(答申)

平成29年2月27日に諮問のあった「第2期大湊村総合村づくり計画」の策定について、慎重に審議を重ねた結果、別冊「第2期大湊村総合村づくり計画」のとおり答申します。

なお、計画の推進にあたっては、本村の更なる発展をめざし、将来像である「住み継がれる元気な大湊村」実現のため、具体的な方策を講じ、村民との協働で着実な推進が図られるよう要望します。

## ② 大 湯 村 審 議 会 条 例

昭和60年3月27日

条例第5号

### (目的)

第1条 この条例は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第138条の4第3項の規定に基づき、大湯村審議会の設置、組織及び運営に関する事項を定めることを目的とする。

### (設置)

第2条 村長の諮問に応じ、基本構想の調整、その他その実施に関し必要な調査及び審議を行わせるため、大湯村審議会(以下「審議会」という。)を置く。

### (組織)

第3条 審議会は、委員70人以内で組織する。

2 審議会に、その所掌事項に係る専門的事項を分掌させるために、部会を置くことができる。

3 委員は次の各号に掲げる者のうちから、村長が任命する。

(1) 村の公共的機関団体から推薦された者

(2) 学識経験を有する者

(3) 公募により応募した村民

4 審議会に、学識経験を有するアドバイザーを置くことができる。アドバイザーは村長が委嘱する。

### (会長)

第4条 審議会に会長を置き、委員の互選によってこれを定める。

2 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

3 会長に事故があるとき、または会長が欠けたときは、あらかじめ会長の指名する委員がその職務を代理する。

(委員)

第5条 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

2 委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員が任命された時における当該身分を失った場合は、委員を辞したものとみなす。

4 委員は非常勤とする。

5 委員は、当該諮問に係る審議を終了したときは、解任されるものとする。

(会議)

第6条 審議会は、会長が招集し、その会議の議長となる。ただし、委員が新たに任命された後、最初に招集すべき審議会の会議は村長が招集する。

2 審議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 審議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第7条 審議会の庶務は、総務企画課において処理する。

(委任規定)

第8条 この条例に定めるもののほか、審議会に関し必要な事項は、村長が別に定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成15年3月24日条例第7号)

この条例は、公布の日から施行する。

### 3 大湊村審議会委員名簿

委員氏名	所属先等	役職名	備考
森本 哲哉	大湊村教育委員会		
大島 和夫	大湊村農業委員会 会長	職務代理	
細川 忠通	大湊村農業協同組合 専務理事		
工藤 貞夫	大湊土地改良区 理事		
土田 章悟	大湊村社会福祉協議会 会長		
小玉 公彦	(株)大湊村カントリーエレベーター公社 代表取締役社長		
鈴木 英毅	大湊村自治会長連絡協議会 会長		※ 1
土田 崇裕	大湊村自治会長連絡協議会 会長		※ 2
小澤 睦	大湊幼稚園 園長		
畑澤 千景	大湊小学校 校長		
長谷川 朋欣	大湊中学校 校長		
鈴木 みどり	大湊村民生児童委員協議会		
三浦 修	大湊村消防団 副団長		
小林 信之	大湊村交通指導隊 副隊長		
菅生 金作	安全安心ネットワーク委員会 会長		
池田 昌弘	大湊村情報発信者		
菅原 恒紀	大湊村商工振興会 会長		
鈴木 学	大湊村特別養護老人ホームひだまり苑 施設長		
佐々木 宏	大湊村認定農業者連絡協議会 副会長		
三浦 伸洋	大湊村農業近代化ゼミナール 会長		
栄田 幸悦	大湊村農協青年部 部長		
三浦 勝	大湊村身体障がい者協会 理事		
櫻木 義忠	大湊村老人クラブ連合会 会長		
川村 憲孝	大湊村耕心会 会長		
山本 嘉子	大湊村婦人会 会長		
栢森 慶子	大湊村婦人会 部長		
大島 翔平	大湊村青年会		
小野 未来	大湊村青年会		

委員氏名	所属先等	役職名	備考
花塚 香菜子	大湊村フレッシュミズ		※1
後藤 美鈴	大湊村フレッシュミズ		※1
三浦 早苗	大湊村フレッシュミズ		※2
中山 郁恵	大湊村フレッシュミズ		※2
佐藤 友能	大湊村PTA連絡協議会 会長		※1
三浦 久樹	大湊村PTA連絡協議会 副会長		※1
福田 和之	大湊村PTA連絡協議会 会長		※2
藤井 真	大湊村PTA連絡協議会 副会長		※2
藤井 真	大湊村子ども会育成連絡協議会 会長		
高木 茂之	大湊村スポーツ推進委員 副委員長		
佐藤 正之	大湊村体育協会 会長		
馬場 晶寛	大湊村スポーツ少年団		
五十嵐 敏夫	大湊村芸術文化協会 副会長		
森田 勝利	ボランティア団体連絡協議会 幹事		
芹田 省一	大湊村国際交流協会		
大内 一弘	公募委員	会長	
今野 茂樹	公募委員		
金子 拓	公募委員		
角田 伸一	公募委員		
白戸 直美	公募委員		
斉藤 幸子	公募委員		
小日山 宏美	公募委員		
高橋 愛子	公募委員		

※1 H28年度

※2 H29年度

## 4 おおがたむら未来会議※参加者名簿

氏名	備考(団体名等)		
01.畠山 政雄	大潟村ボランティア 団体連絡協議会	31.三浦 伸洋	大潟村 農業近代化ゼミナール
02.森本 好昭		32.尾崎 正春	
03.中山 美恵子		33.谷 真誠	
04.森田 勝利		34.戸嶋 宏輝	
05.三浦 早苗	大潟村フレッシュミズ	35.竹本 健治	
06.中山 郁恵		36.今野 芳昭	大潟村青年会
07.杉森 恭子		37.田口 雄大	
08.松崎 弘郁	大潟村 シルバー人材センター	38.本庄 渉	
09.田中 里江		39.内金崎 太己	
10.下間 文夫		40.大島 翔平	公募
11.櫻木 義忠	大潟村 老人クラブ連合会	41.吉原 忍	
12.山田 照雄		42.合田 正樹	
13.平間 和子		43.三村 敏子	
14.伊藤 尚子	大潟村婦人会	44.斉藤 幸子	
15.鈴木 富士子		45.角田 伸一	
16.齊藤 美智子		46.松橋 拓郎	
17.山本 嘉子			
18.栢森 慶子			
19.工藤 賢一	大潟村耕心会		※おおがたむら未来会議(村民ワークショップ)
20.澤田石 生久男			
21.川村 憲孝			
22.菅生 金作	大潟村安全安心 ネットワーク委員会		
23.齊藤 金昭			
24.小坂 誠			
25.高橋 英樹	大潟村認定農業者 連絡協議会		
26.谷 隆之			
27.小野 学	大潟村芸術文化協会		
28.大畑 和子			
29.大内 一弘	東3-4自治会		
30.松岡 正樹			

## 5 村民ヒアリング

### 村民ヒアリングの目的・方法

今後「まちの担い手」として期待される農家、各種団体、学生など、今後の取り組みに対して参画が期待できる団体、個人にヒアリングを実施し、各主体の思いやニーズを把握した。

#### ヒアリング概要

日 時：平成29年1月29日（日） 住民3名  
平成29年1月30日（月） 住民2名、団体1つ（3名）  
平成29年2月1日（水） 住民2名  
平成29年2月2日（木） 住民5名  
平成29年2月26日（日） 住民2名  
平成29年2月27日（月） 住民2名、団体1つ（2名）、大学（2名）  
平成29年3月 2日（木） 団体1つ（3名）

会 場：大湊村役場ほか

対象者：大湊村にお住まいの方、活動されている方

質問者：株式会社studio-L

オブザーバー：伊東氏（大湊村職員）

実施方法：質問者による対面式のインタビュー形式、  
及びディスカッション形式

参考資料

#### 質問項目

1. 基本情報
2. 大湊村の魅力
3. 大湊村の課題
4. 大湊村が今後どのようなになったらいいか
5. ご自身が今後やってみたい活動は
6. 面白い活動をされている団体や人の紹介

## 6 村づくり計画策定庁内チーム設置要綱

### 村づくり計画及び行財政改革大綱策定に伴う 村づくり計画策定庁内チーム設置要項

#### 【目的】

第1条 第2期大湊村総合村づくり計画(仮称)(以下「村づくり計画」という。)及び第3次大湊村行財政改革大綱(以下「行財政改革」という。)策定にあたり、現行計画の現状分析・課題等について、また、効率的な行財政運営の推進のための見直しを検討する必要があります。両者は関連性・連動性があることから一体的に取り組むことが合理的であり、計画の策定に関し必要な調査及び協議をするとともに、庁内の合意形成と大湊村コミュニティ創生戦略との計画相互の整合性を図り、計画の素案を作成するため「村づくり計画策定庁内チーム」(以下「策定庁内チーム」という。)を設置する。

#### 【検討事項】

第2条 策定庁内チームは、次の事項において調査・検討を行い素案作成を行う。

##### (1) 第2期大湊村総合村づくり計画(仮称)

- 1) 大湊村総合村づくり計画後期基本計画の事業評価・検証
- 2) 現行施策における現状・課題の把握と分析
- 3) 事業施策における内容の検討

##### (2) 第3次大湊村行財政改革大綱

- 1) 業務改善の見直し
- 2) 補助金・委託料の見直し
- 3) 組織構築の見直し
- 4) 職員の適性化と人材育成
- 5) 使用料・施設利用料等の見直し
- 6) 公共施設の利用拡大と適正管理
- 7) 村有財産の有効活用の推進
- 8) 行政経費の見直し

## 【構成】

第3条 策定庁内チームは、各課等から村長が指名した職員で構成する。

- 2 策定庁内チームには、必要に応じて村内関係団体から委員として入れることができる。
- 3 策定庁内チームに座長、副座長を置く。
- 4 座長は副村長とし、総務企画課長を副座長とする。
- 5 村づくり計画及び行財政改革策定をするに当たり、施策の内容に応じそれぞれの分野において、必要に応じて村内の関係団体等との協議をすることができる。

## 【部会】

第4条 行財政改革の策定に関する具体的な事項について検討協議を行うため、策定庁内チーム内に部会を置く。

- 2 部会は、「組織・補助金・施設」の3部会とし、部会長及び副部会長を置き、構成員の互選により定める。
- 3 部会は、必要に応じて部会長が招集し、その結果を策定庁内チームに報告する。

## 【会議】

第5条 策定庁内チームの会議は、座長が招集し、その議事進行を務める。

## 【事務局】

第6条 事務局は総務企画課 企画財政班とする。

## 【その他】

第7条 その他必要な事項については、策定庁内チームで協議する。

## 附 則

この要項は平成29年4月12日から施行する。

庁内チーム構成員名簿

No	所属	役職	氏名	備考
1		副村長	工藤 敏行	(座長)
2	総務企画課	課長	加藤 光行	(副座長)
3	総務企画課	課長補佐	谷 博太	総務広報班 班長
4	総務企画課	主査	小野 朋也	総務広報班
5	総務企画課	主査	進藤 智哉	企画財政班
6	税務会計課	課長補佐	近藤 綾子	税務班 班長
7	税務会計課	主査	工藤 修功	会計管財班
8	住民生活課	課長	加島 薫	
9	住民生活課	主査	吉田 敦	住民保健班
10	住民生活課	主査	遠藤 有子	保健センター
11	住民生活課	主任	宮田 文美	住民福祉班
12	産業建設課	課長補佐	薄井 伯征	産業振興班 班長
13	産業建設課	課長補佐	澤井 公子	産業振興班
14	産業建設課	主査	小林 豊	建設上下水道班
15	環境エネルギー室	主事	畠山 友伴	環境エネルギー班
16	教育委員会	主席次長補佐	床田 昭人	生涯学習班 班長
17	教育委員会	次長補佐	後藤 克司	学校教育班 班長
18	教育委員会	保育士	佐藤 純子	保育園
19	教育委員会	主任教諭	庄司 真紀子	幼稚園
20	事務局	課長補佐	伊東 寛	企画財政班 班長
21	事務局	主任	渡辺 祥達	企画財政班
22	事務局	主任	池田 龍成	総務広報班
23	事務局	主事	伊藤 智子	企画財政班

## 7 策定までの経緯

平成  
28年

- 10月 計画方針について協議
- 11月8日 第2期大湊村総合村づくり計画策定に伴う支援機関として、  
(株)studio-Lと策定業務委託契約締結  
スケジュール、庁内及び村民ヒアリング準備

平成  
29年

- 1月16日～2月2日 現行の事業実施における庁内ヒアリング
- 1月29日～3月2日 村民ヒアリング
- 2月27日 第1回大湊村審議会  
会長選出、組織体制、策定スケジュールについて
- 4月17日 第1回村づくり計画策定庁内チーム会議  
策定庁内チームの設置、今後のスケジュール、職員研修について
- 4月24日 職員研修(キックオフ)  
長野県白馬村ほか2自治体職員と計画策定に伴う意見交換
- 5月16日 第1回職員研修  
計画策定の意識確認、村民ワークショップでのファシリテーション演習
- 5月30日 第2回職員研修  
村民ワークショップでのファシリテーション演習
- 6月22日 第3回職員研修  
村民ワークショップでのファシリテーション演習
- 6月27日 第1回おおがたむら未来会議(村民ワークショップ)
- 7月4日 第4回職員研修 村民ワークショップ振り返り
- 7月25日 第2回おおがたむら未来会議(村民ワークショップ)
- 7月29日 大湊村応援大使等との意見交換会
- 8月18日 第3回おおがたむら未来会議(村民ワークショップ)
- 10月10日 第4回おおがたむら未来会議(村民ワークショップ)
- 10月20日 第2回村づくり計画策定庁内チーム会議  
実施事業における意見交換
- 11月13日 第3回村づくり計画策定庁内チーム会議  
村づくり計画基本構想の概要について
- 11月20日 第2回大湊村審議会  
基本構想(案)について

参考資料

平成  
29年

- 12月1日 第4回村づくり計画策定庁内チーム会議  
村づくり計画の原案について
- 12月11日 第5回村づくり計画策定庁内チーム会議  
村づくり計画の基本構想について
- 12月19日 第3回大湊村審議会(分科会)  
「農業・環境」、「福祉・保健・医療」「子育て・教育・コミュニティ」の  
3分野に分かれて実施
- 12月20日 議員へ素案説明

平成  
30年

- 1月19日 第4回大湊村審議会  
村づくり計画原案について
- 1月31日 第2期大湊村総合村づくり計画(案)を村長に答申
- 2月21日 大湊村議会議員への説明会
- 3月6日 大湊村議会定例会

## 8 大湯村人口推計

(単位:人)

	平成 30年	平成 31年	平成 32年	平成 33年	平成 34年	平成 35年	平成 36年	平成 37年
0～4歳	147	148	149	151	153	155	157	160
5～9歳	148	147	147	148	148	149	149	150
10～14歳	154	151	149	148	148	147	146	146
15～19歳	188	180	171	167	164	160	156	153
20～24歳	209	211	214	207	196	190	180	171
25～29歳	198	198	199	201	204	207	209	212
30～34歳	164	181	197	197	198	199	199	200
35～39歳	120	116	111	128	150	170	176	194
40～44歳	163	148	133	128	124	117	115	110
45～49歳	210	206	202	188	174	160	145	131
50～54歳	212	216	220	216	212	208	204	200
55～59歳	177	185	193	196	197	203	211	215
60～64歳	150	149	147	155	166	170	179	186
65～69歳	191	169	147	146	145	144	143	141
70～74歳	238	240	243	225	201	180	161	140
75～79歳	208	209	210	212	213	215	222	225
80～84歳	166	172	178	179	179	180	182	182
85歳以上	157	168	178	187	197	206	216	225
計	3,200	3,194	3,188	3,179	3,169	3,160	3,150	3,141

参考資料

(平成29年12月1日 大湯村調べ)

## ⑨ 行政サービス比較

### 周辺市町村との行政サービス負担比較

(単位:円)

区 分		公営住宅料	上水道料	下水道料	幼・保育料	保・保育料		介護保険料
		木造・約72㎡	20立米/月		月額	3歳未満	3歳児	(基準月額)
男鹿市	料金	38,500	2,872	3,240	14,900	52,900	33,300	5,980
	指数	117	67	69	116	102	66	130
湯上市	料金	41,500	3,687	3,024	5,500	51,000	35,000	5,850
	指数	126	86	64	43	98	69	127
五城目町	料金	29,500	3,888	2,376	10,000	52,000	30,000	5,940
	指数	89	91	51	78	100	59	129
八郎潟町	料金	43,300	5,184	3,240	4,500	52,000	50,500	5,220
	指数	131	121	69	35	100	100	113
井川町	料金	30,700	3,080	3,080	7,200	94,200	46,800	5,760
	指数	93	72	66	56	181	93	125
大潟村	料金	33,000	4,291	4,692	12,850	52,000	50,500	4,600
	指数	100	100	100	100	100	100	100

(平成30年1月 大潟村調べ)

- ①公営住宅料:階層家賃の収入月額を158,000円～487,001円に設定。
- ②水道料:メーター料金含む金額
- ③下水道料:メーター料金含む金額
- ④幼・保育料:教材費等は除く。
- ⑤保・保育料:階層区分を国の第8階層に設定。
- ⑥介護保険料:平成30年度基準月額。
- ⑦各区分指数:大潟村を100とした場合の値

# 10 財政計画

(単位:億円)

項 目		H28 決算	H29 決算見込	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
歳 入	村税	7.2	7.3	7.3	7.3	7.3	7.3	7.2	7.2	7.2	7.2
	その他交付金等	1.7	1.8	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7
	地方交付税	13.4	12.9	12.2	12.7	12.7	12.7	12.5	12.5	12.5	12.5
	国県支出金	5.5	4.7	3.6	3.5	3.5	3.5	3.3	3.3	3.3	3.3
	使用料等	0.6	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7
	繰入金(基金)	1.3	1.6	4.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
	その他(繰越金等)	3.2	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
	村債	1.7	7.3	2.9	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4
	臨財債	1.1	1.0	1.3	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
	市町村振興	0.3	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
	公共事業等債	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
	学校教育等	0.0	5.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	0.2	0.2	0.4	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
	歳入計(A)	34.6	39.3	34.4	31.3	31.3	31.3	30.8	30.8	30.8	30.8
歳 出	人件費	6.3	6.6	6.5	6.5	6.5	6.5	6.5	6.5	6.5	6.5
	扶助費	1.5	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6
	公債費	4.3	3.4	5.4	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
	うち繰上償還	1.1	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	物件・補修費	6.8	7.2	7.2	7.2	7.2	7.2	7.2	7.2	7.2	7.2
	補助費等	8.9	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	6.5	6.5	6.5	6.5
	積立金	1.9	1.8	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
	繰出金	1.8	1.9	1.6	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8
	投資的経費	1.6	8.9	4.9	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
	その他(予備費)			0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
	歳出計(B)	33.1	38.4	34.4	31.3	31.3	31.3	30.8	30.8	30.8	30.8
歳入歳出差引額(A)-(B)		1.5	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
基 金	積立額	192	180	217	217	217	217	217	217	217	217
	取崩額	128	160	373	200	200	200	200	200	200	200
	残高	1,012	1,032	876	893	910	927	944	961	961	978

参考資料

# 村税決算額の推移（国民健康保険税を除く）

（単位：千円）

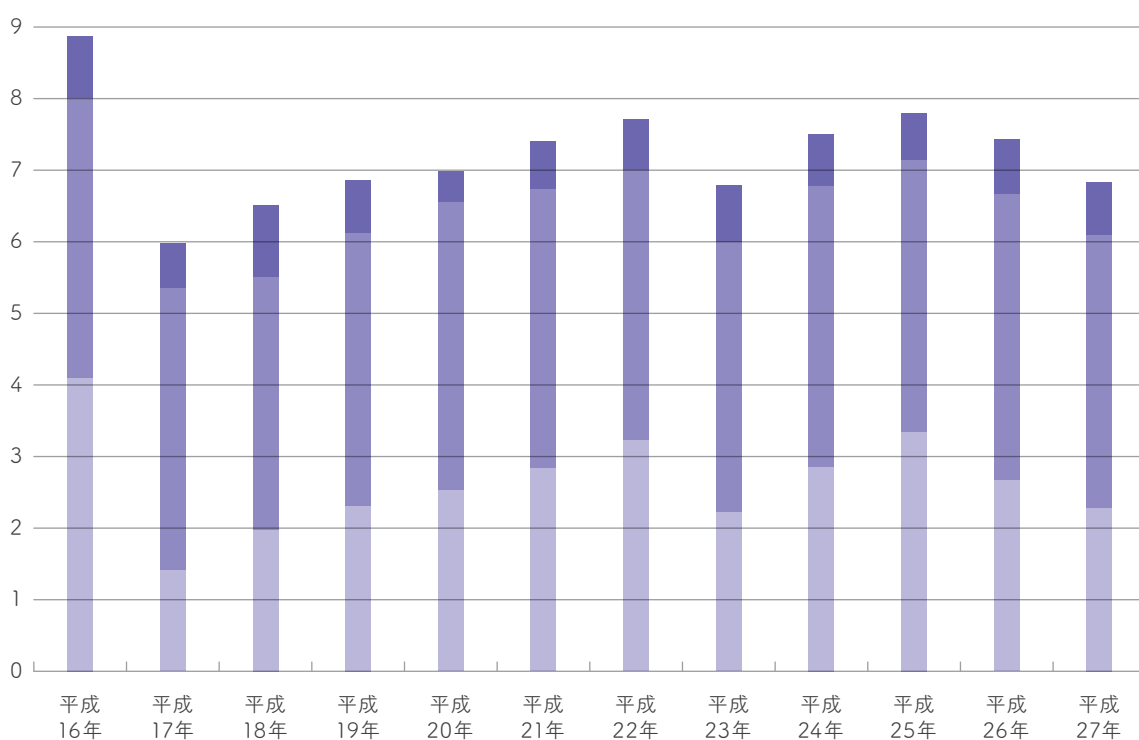
区分	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
市町村民税	410,144	138,142	199,613	228,820	245,474	289,138
固定資産税	394,002	392,082	381,706	383,795	387,525	381,473
その他の税目	70,176	68,221	69,204	67,997	66,040	67,786
合計	874,322	598,445	650,523	680,612	699,039	738,397

区分	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
市町村民税	315,825	214,598	288,987	323,789	267,237	223,030
固定資産税	388,538	394,656	389,030	390,008	399,327	388,380
その他の税目	67,895	69,273	70,591	73,076	69,798	69,135
合計	772,258	678,527	748,608	786,873	736,362	680,545

区分	平成28年
市町村民税	269,261
固定資産税	386,306
その他の税目	68,644
合計	724,211

■ その他の税目 ■ 固定資産税 ■ 市町村民税

（億）



## 11 総生産額と所得水準の推移

	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
第1次産業 総生産額	7,116	7,578	6,858	4,905	6,811	7,760	7,088	5,557
第2次産業 総生産額	1,701	2,802	3,075	3,809	4,403	4,564	4,588	4,033
第3次産業 総生産額	10,001	10,185	10,214	9,430	9,864	9,956	9,423	9,197
村所得水準	3,260	3,388	2,968	2,905	3,416	4,099	3,971	3,471

\*総生産額(単位:百万円) 所得水準:住民1人当たりの分配所得額(単位:千円/人)

秋田県市町村経済計算年報より

## 12 農業経営の推移

(単位:千円・ha)

区分	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
粗収益	27,318	26,954	29,835	20,029	26,086	24,503
経営費	14,278	14,270	15,511	14,719	13,976	14,091
所得	13,040	12,684	14,324	5,310	12,110	10,412
平均耕作面積	15.09	15.30	15.27	15.32	15.21	15.32
10a所得	86.4	82.9	93.8	34.7	79.6	68.0

区分	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年
粗収益	24,294	29,839	33,072	29,372	33,720	36,522
経営費	13,227	15,656	16,113	18,117	19,318	20,179
所得	11,067	14,183	16,959	11,195	14,402	16,343
平均耕作面積	15.21	17.60	18.44	19.60	20.53	20.47
10a所得	72.8	80.6	92.0	57.1	70.2	79.8

区分	平成25年	平成26年	平成27年
粗収益	31,362	31,623	34,396
経営費	18,588	19,158	18,876
所得	12,774	12,465	15,520
平均耕作面積	19.26	19.73	19.80
10a所得	66.3	63.2	78.4

①八郎潟中央干拓地入植農家  
経営調査報告書(調査対象農  
家:10戸)

②平均耕作面積:畦畔等を除  
く作付可能面積

## 13 観光客(交流人口)の推移

(単位:人)

年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
観光客数	1,138,524	1,104,655	1,055,674	1,124,800	1,283,220	1,085,675
年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
観光客数	917,981	829,246	879,106	1,015,768	1,037,408	1,150,988

(大潟村調べ)

# おおがたむら 未来会議

vol.1  
2017.6.27.Tue



## 大湊村の特徴について 話し合いました！

6月27日(火)総勢60名の方にご参加いただき、「第1回おおがたむら未来会議」を開催しました。これからの大湊村の将来像・方向性などを取りまとめた次期総合むらづくり計画を、村民、役場職員が一緒になって、検討していく場となります。ワークショップを運営するstudio-L代表山崎氏の講演からはじまり、ご参加いただいたみなさんご自身が感じる大湊村の特徴等を話し合いました。

### 大湊村 村長あいさつ

今回、村の総合計画づくりをするにあたって、村民同士が自由に気楽に話し合いながら出合った意見を総合村づくり計画に反映させたいと思い、このようなワークショップスタイルでの開催することにしました。今回の「おおがたむら未来会議」をきっかけに、色々なことを話し合いながら、村づくりに村民が関わることに繋がってほしい。そして、新しいことを生み出していった欲しいと思っています。

#### 〔日時〕

6月27日(火)19:00～21:30

#### 〔場所〕

大湊村役場 2F会議室

#### 〔プログラム〕

- ・開会のあいさつ
- ・大湊村総合村づくり計画について
- ・studio-L代表山崎亮氏 講演  
これからの暮らし方について
- ・意見交換  
他にはない大湊村の特徴を考える！
- ・発表
- ・講評
- ・閉会のあいさつ

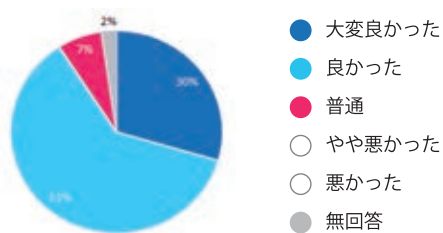
## 講評

他の市町村で稲作が盛んなところをイメージして、「これが他にはない大潟村の売りだ」と思えるものを突き詰めることが大切です。つまり、大潟村ならではのものをたくさん持つことが大切で、それが、次の世代が村に残る原動力になるはずです。「これなら他のところに住んでも同じ」という状況に陥らず、独特な大潟村の暮らしや時間の使い方を大事にして欲しいです。今回話し合われた内容をふまえて、次回以降、これからの素敵な大潟村の暮らしを考えてみてください！



## アンケート結果

Q1. 今回のワークショップの感想を教えてください



Q2. 一番印象に残っていたことは何ですか

- ☐ 各班からの発表で大潟村の特徴のようなものが出ていた
- ☐ 意見交換で村の色々な事がわかった
- ☐ 自分の10年後
- ☐ どの班も活発に話し合われていた、もっと静かに進むかと思っていたので驚いた（とても良かった）
- ☐ 次世代に何を残すか
- ☐ シェア、参加型社会になったこと
- ☐ 同じテーブルメンバーと共通意見があること、年代は違うのに感じる事が一緒だったこと
- ☐ 先輩方の色々な想い聞けて良かった
- ☐ 大潟村は良い村だと思った
- ☐ 一生懸命に課題に向かう参加者の姿  
若い人から自然が豊かという意見があり、私が忘れていたことを呼び起こされた気がします
- ☐ 高校を守った事例は素晴らしかった
- ☐ みんなで年齢関係なく意見交換出来たこと  
大潟育ちであたり前すぎて、皆さんからのいいねで気づかされた

Q3. 今後、意見交換したい内容・テーマはありますか

- ☐ 子供（教育、施設）
- ☐ 大潟時間
- ☐ これからの農業の本音トークと人づくり
- ☐ 福祉教育
- ☐ どうしたら女性が活躍できるか
- ☐ 村民自身で何ができるのか
- ☐ 活動人口の増やし方、活動する人の人材育成
- ☐ 村にしかないものについて
- ☐ 若い世代が積極的に村づくりに参加するようになるにはどうしたらよいか
- ☐ 若者が元気になる方法、しっかり意見を言うようにするには（入植者だけでなく）
- ☐ 自然、水
- ☐ 鉄人入植者の後の二世三世の気概

Q4. その他感想をご自由にお書きください。

- ☐ 色々な考え方があって良かった
- ☐ 最後の話のように、他の市町村やどこにでもあるものをわざわざ作る必要はないのかも。独自性こそが大事、不便もまたよし
- ☐ グループの人数、9人は多い、年齢、男女別、バランスよく希望します
- ☐ 物事を深く考えなくてはいけなかったと感じました
- ☐ 年代をまじえて交流することはないので良かった
- ☐ 村について皆さん思っていることは同じだった

## studio-L

studio-L（スタジオエル）は、代表の山崎亮が2005年に設立。地域の課題を地域に住むひとたちが解決するコミュニティデザインに携わる。これまでに、いえしま地域まちづくり、海士町総合復興計画など、まちづくりのワークショップや住民参画の総合計画づくりなどに携わっている。

＜問合せ先＞大潟村役場総務企画課 企画財政班

【住所】〒010-0494 大潟村字中央1-1 【電話】0185-45-2111 [E-mail] g-kikaku@ogata.or.jp

説明

## 大潟村総合村づくり計画について

studio-L 小山氏

大潟村の皆さん、役場職員と一緒に総合村づくり計画を作っていくことになります。studio-Lは計画づくりのお手伝いをします。今後10年後、20年後を見据えた村づくり計画をつくっていきたいと思っています。

昨年度末から開始しており、職員と村民に現状についてのヒアリングを行いました。

その結果、大潟村には次のような特徴があることが見えてきました。

- 農業を中心とした暮らし
- 経済的に安定している
- 独特な人間関係

今年度は、「おおがたむら未来会議(計5回予定)」で、これからの大潟村の将来像、目標を検討し、現状の課題に即した取り組みを計画書に反映していきます。また、大潟村の暮らしを改めて皆さんと一緒に調べて別冊のような形でまとめていく予定です。



講演..

## これからの暮らし方について

studio-L 山崎氏



日本社会は人口減少と少子高齢化の時代へと入っています。1960年までは、国はまだ貧しく、税収の不足分は、住民が、結、講、連、座といった相互扶助の仕組みで補っていました。ただ、2010年以降は、少子高齢化が進み、行政サービスをする余裕がなくなり、これまでの仕組みをどうするか考えていく必要性が高まっています。日本全体の流れと大潟村の流れは、大潟村の成り立ちによる特殊事情により完全に一致しないかもしれませんが、大きくはずれていないと思います。この日本全体の動きに対して、大潟村はどうか？という問題を一緒に考えようというのが、今回の住民参加による計画作りのポイントになります。

例えば、2050年に向けて人口が減る。それをどう補うのかという課題があります。

定住人口の減少分を交流(観光)人口で補う方法が盛んに言われていますが、そのためには観光資源をつくらなくてはいけないなど、いろいろな課題があります。そこで、定住人口を活動人口で補う方法について検討するのはどうでしょうか。活動人口とは、まちづくりに参加する人口のことで、それを増やせば、仮に人口自体は減ったとしても、村を運営できる人の数は増えます。

島根県海士町での総合計画づくりについて事例を紹介します。島根県海士町は、人口約2700人、フェリーで本土(島根県境港)から3時間の離島です。総合計画づくりでは、約100人が参加し4つのグループに分かれて話し合いました。最終的に、総合計画のテーマとなったのは「島の幸福論」、海士町が目指している幸福の指標と、都市が目指す幸福の指標を比べながら、海士町で暮らす人々が求めている幸福とは何かを追究しました。また、町民からは、「住民からの24提案」として、自分たちでやりたいと思うことを、総合計画の施策に紐づけて実行することにしました。大潟村でも、こういう機会をうまく利用して、大人たち、その姿を見る子どもたちの人生をつくることにつなげていって欲しいです。



## 意見交換

# 他にはない大潟村の特徴を考える！

改めて大潟村の特徴を参加者の皆さんに考えてもらい、意見交換してもらいました。意見交換は以下のようなステップで進めました。

①テーブルごとの自己紹介

②大潟村の特徴を、「いいね」と「困ったね」を個々で付箋に書く

③テーブルごとにそれを発表して、まとめる

村民同士で大潟村の特徴について話し合うことで、大潟村の良い部分、課題を再認識するシーンが各テーブルで見受けられました。



## 各班の意見抜粋

### 大潟村の特徴でいいねと思っていること

- 地域コミュニティ
  - ・地域行事が充実している
  - ・住区の行事に大部分が参加する
  - ・全国から集まった人々で村がつくられているので、新しく村民になってもよそ者扱いはない
- 暮らし/生活
  - ・多世代で住んでいる
  - ・家がそれなりに大きい
  - ・公園が多いところ
  - ・動物が多く、ホタル、チュウヒが見られる
- 産業
  - ・農業の作業効率が良い
  - ・後継者が帰ってくる
  - ・大規模農業
  - ・産直センターの野菜がいい
- 子育て/教育
  - ・子育てしやすい
  - ・保育園、幼稚園に入れる
  - ・日本一の文化村 3000人の住民で3Iの芸術・文化サークル
  - ・教育熱心

### 大潟村の特徴で困っていること

- 地域コミュニティ
  - ・村民同士のコミュニティがだんだん難しくなっている
  - ・コミュニティの参加者が同じメンバー
  - ・世代間交流が不十分
  - ・既存の社会団体への参加減少
- 暮らし/生活
  - ・二人だけの老後が心配、相互扶助の強化
  - ・空き家、更地が多くなってきた
  - ・買い物が不便
  - ・駅がない
- 産業
  - ・住んでいる人が同じ仕事
  - ・冬のアルバイトがない
  - ・農家の人が多いので、行事などが農家向けの気がする
  - ・女性の起業がなかなかすすまない
- 子育て/教育
  - ・子供用品を買う所が不便
  - ・子供の習い事が村にない
  - ・学校以外の教育を求めると秋田市まで行かなければならない
  - ・子供が少ない

参考資料

## 発表

### グループ2



コミュニティがしっかりしていて、特に懇親会のパワーがすごい。強みは、しっかりしたコミュニティ。子どもたちが戻って来る村づくりを目指したい。一方で、弱いところも出てきました。コミュニティが強い半面、外との交流に弱い点も意見に出ていました。

### グループ4



色々な意見が出るのは村民性の影響もあると思いました。その結果、話をまとめるのが大変になりますが、この村民性を村づくりの原動力に出来ないかと考えました。そのためにも、人づくり・教育や村の環境維持も大切になってくるという意見が出ていました。

### グループ6



「いいね」が多く、「困ったね」が少ないことがわかりました。「自然がいいね」がいちばん多く、田んぼを減らさない・守ることが、大潟村の特徴や良さを守ることにつながるという話し合いがされました。一方で施設、病院などの面が弱いという意見もありました。

# おおがたむら 未来会議

vol.2  
2017.7.25.Tue



## 大潟村でこれから大事になる キーワードを話し合いました

7月25日(火)約40名の方にご参加いただき、「第2回おおがたむら未来会議」を開催しました。これからの大潟村の将来像・方向性などを取りまとめた次期総合村づくり計画を、村民、役場職員が一緒になって、検討していく場となります。今回は、前半、後半にわけて、大潟村で「今後大事になってくるキーワード、アクション、ハードル」をテーマにして、意見交換しました。

### 前回振り返り

studio-L 小山氏

第1回目では、studio-L代表山崎さんより「これからの暮らし方」というテーマで、大潟村ならではの特徴をいかした村づくりに取り組んでいった方がよいというお話がありました。また、意見交換では、大潟村の「良いところ」「困ったところ」という視点で、6つのグループに分かれて話し合いました。改めて村について話し合うことで、これまで気づかなかった意見があったなどの声がありました。

#### 【日時】

7月25日(火)17:00~19:30

#### 【場所】

大潟村役場2F会議室

#### 【プログラム】

- ・開会のあいさつ
- ・前回の振り返り
- ・大潟村総合村づくり計画について
- ・事例紹介
- ・意見交換  
大潟村で大事にしていきたいこと
- ・発表
- ・講評
- ・閉会のあいさつ

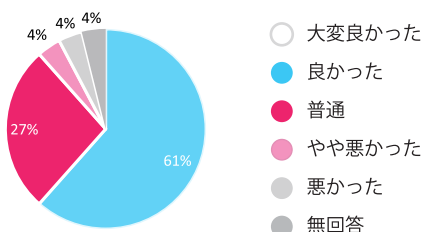
## 講 評

今後の計画づくり、10年の計画づくりに貴重な意見が出ていました。全体的に、時代の流れに対応しなくては、という意見が興味深かったです。これからの10年間に何が起こるかは正確には分かりません。だから決めつけ過ぎずに、柔軟に対応できる力が大切になってきます。大潟村ならではの強みがたくさん出ていましたが、村民がまだ気づいていない特徴を顕在化することが、将来像を考える上でポイントになっていきます。次回は、これまでの意見の内容を整理して、議論を深めていきたいと思います。



## アンケート結果

Q1. 今回のワークショップの感想を教えてください



Q2. 一番印象に残っていたことは何ですか

- ☐ テーマを絞った意見交換が出来て良かった
- ☐ 生きがいの在り方
- ☐ 人づくり、個々の成長が大切。課題をチャンスにも響いた
- ☐ 参加者は行政だけでなく（頼らず）、自らが参画（行動）しなければならないことに気付いていること
- ☐ テーブル移動でより詳しく話し合いが出来た
- ☐ 村の自立を考え、健康に生活できる喜びがある
- ☐ 前置き、事例の紹介は不要（時間がもったいない）、討議の時間が短い
- ☐ キーワード、アクションとわけて考えを整理されていくように思った
- ☐ 何をどうしていきたいか？またそれをするためには何が必要なのかということを意見交換出来たので良かったと思う
- ☐ テーマに具体性が出てきて話しやすかった
- ☐ キーワードをなかなか思いつかなかったが、生きがいとしてみた。同意見があったことが印象的

Q3. 今後、意見交換したい内容・テーマはありますか

- ☐ ひとりひとりが村づくりの一員だったという意識づくり、環境
- ☐ 医療、防災について、もっと深く意見交換したい年代別のグループでの話し合い（農業、暮らし、福祉、教育）
- ☐ 男女共同参画社会の推進
- ☐ 何ができるか。少人数で村のためにできること
- ☐ 大潟村ブランドをどう立ち上げていくのか？
- ☐ 大潟村がPRできるものについて
- ☐ 村民やコミュニティ、サークルなどが自分たちでできること、やりたいこと
- ☐ 環境関係
- ☐ 大潟村、最も必要とすることは？
- ☐ 大潟村の未来像

Q4. その他感想をご自由にお書きください。

- ☐ 学び続けることの大切さと素晴らしさを感じた村民の参加が少なかったので、もう少し遅い時間や
- ☐ 週末などの開催でもいいと思います時間が足りなかった、人が少なかった
- ☐ 色んな分野で課題がありびっくりしている、住みよい村だと思っているのに。
- ☐ これまでの発表などを広報などで具体的にお知らせして、参加者を増やす工夫を
- ☐ 参加者以外への意識改革が重要

## studio-L

studio-L（スタジオエル）は、代表の山崎亮が2005年に設立。地域の課題を地域に住むひとたちが解決するコミュニティデザインに携わる。これまでに、いえしま地域まちづくり、海士町総合復興計画など、まちづくりのワークショップや住民参画の総合計画づくりなどに携わっている。

＜問合せ先＞大潟村役場総務企画課 企画財政班

【住所】〒010-0494 大潟村字中央1-1 【電話】0185-45-2111 [E-mail] g-kikaku@ogata.or.jp

## 説明

# 大湊村総合村づくり計画について

studio-L 小山氏

大湊村の皆さん、役場職員と一緒に総合村づくり計画を作っていくことになります。studio-Lは計画づくりのお手伝いをします。総合村づくり計画は、一般的に、基本構想(将来像等)、基本計画(施策等)部分で構成され、主に村の今後8年間の方向性をまとめた計画書になります。

「おおがたむら未来会議(計5回予定)」として、これから大湊村の将来像、課題等を検討し、皆さんの想いを中心に計画書に反映していきます。また、大湊村の暮らしを改めて皆さんと一緒に調べて別冊のような形でまとめていく予定です。

最終的には、村民と役場職員が一緒になって作業を行うことで、ワークショップ終了後も一緒になって活動、考えたことを実行できる関係性を築くことを目的としています。



## 事例紹介...

# 地域のビジョンを共有するためのキーワード探し studio-L 醍醐氏



地域のビジョンを共有するためにキーワードを探すというのは、その土地、住んでいる人が思う基準やものさしを決める事につながってきます。総合計画の中にも、各地域のキャッチコピーとして、その土地ならではの基準、ものさし、やり方を折り込んでいくことになります。

前回、山崎さんがご紹介した島根県海士町の総合計画では、「幸福」という言葉をキーワードにしました。「町民の幸せ」をアンケートで改めて把握したところ、都会にはない島独特の観点ができてきたので、「島の幸福論」という形でまとめました。

次に、長野県白馬村では、「多様性」、「学ぶ」をキーワードにしました。背景にあるのは、ペンションブームやオリンピック以降の失われた20年(スキーバブル崩壊)を経て、増え続けているインバウンドによる観光客、外国人移住者等、多様な人たちが

訪れたり、住む土地柄という特徴があります。また、自然災害があったとしても、元々ある山間部の伝統的な助け合い精神があり、お互い違いを受け入れ、学び合いながら暮らしてきた村という特徴もあったので、この2つの側面に焦点を当てました。その結果、最終的なまとめ方として、どのような社会状況になったとしても、「多様であることから交流し学びあい成長する村」を目指すとししました。

最後に、長野県木島平村では、ヒアリング等を通して日本の原風景、暮らし方が残っている土地柄ということが見えてきたので、「農村」をキーワードにしました。一方で、農村での暮らしの中にも楽しさがないと、何事にも長続きしません。ですから、自分たちが楽しいと考えたことを、自分たちで試してみるということも意識して欲しかったので、「楽しさ」という言葉をフレーズの中に入れました。キャッチフレーズとしては、「これからの農村を生きる～みんなで楽しみをつくりだす村～」としました。現在は、自分たちで考えたことを実行していくためにNPO法人を設立して、活動を続けています。



## 意見交換

# 今後大事になってくるキーワードを考える！

意見交換を前半後半に分けて行いました。前半では、大潟村のこれからの将来を考えた時に、「大事になってくるキーワード、目標」を参加者の皆さんに考えてもらいました。意見交換の後半では、前半の意見交換で出た内容を参考にしつつ、7つのテーマに分かれて、「テーマ×ネクスト10年」という設定で取り組み、課題等を話し合いました。テーマ毎に分かれることで、様々なキーワードが出され、活発な意見交換となりました。



## 意見・発表内容抜粋...

### 意見交換 前半 大事になってくるキーワード・目標

- |         |                      |                |
|---------|----------------------|----------------|
| ○ 生きがい  | ○ 暮らしていきたい村づくり       | ○ 図書館の蔵書増、照明整備 |
| ○ 後継者・人 | ○ 農業(所得安定、米以外の作物づくり) | ○ 交通手段の整備      |
| ○ 明るい農村 | ○ 交流(村内外交流、村民イベント)   | ○ 子育て環境の充実     |
| ○ 自立した村 | ○ 居場所づくり             | ○ 村外へのPR       |
| ○ 人口増   | ○ 水質の管理、浄化           |                |

### 意見交換 後半 テーマ× ネクスト10年

- |   |  |
|---|--|
| <p>○ 農村・農業・農家</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・所得を増やすには畑作の可能性の追求</li> <li>・大潟米のブランド化(環境を生かして)</li> <li>・安全な食料基地</li> <li>・食の交流</li> <li>・グリーンツーリズム体験</li> </ul>                        | <p>○ 健康・福祉・医療</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケアシステムの確立</li> <li>・入院施設、医師の確保</li> <li>・人材と人件費が問題になる</li> <li>・小中学校で福祉教育をし、ボランティアを増やす</li> <li>・健康維持、居場所づくり(ひきこもり防止)</li> </ul> |
| <p>○ コミュニティ・地域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の共有が大事</li> <li>・時代の変化で取り組みが変わる</li> <li>・家から出てこなくなった人などに自宅訪問</li> <li>・色んな世代が参加しやすい地域行事の充実</li> <li>・お店を出してコミュニティスペースにする</li> </ul> | <p>○ 自然・環境・文化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業と観光</li> <li>・資源の活用</li> <li>・海への直接排水</li> <li>・堤防の清掃、整備</li> <li>・図書館、文化ホールの整備</li> </ul>   |
| <p>○ 家族・暮らし</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世代間の交流</li> <li>・多世代同居</li> <li>・若い世代に家計を任せる</li> <li>・年代別の食生活の違い</li> <li>・バスの充実、乗り合いタクシー</li> </ul>                                     | <p>○ 子供・教育・学び・子育て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男性の育児参加</li> <li>・安心安全(横断歩道の設置、子どもを預ける場所)</li> <li>・自己有用感を育てる</li> <li>・ハードルは人とお金</li> <li>・だれがやるのか? どういうふうにするのか?</li> </ul>     |
| <p>○ 観光・交流・イベント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・村の交流網</li> <li>・合宿誘致</li> <li>・交通網の整備</li> <li>・公共施設の整備</li> <li>・予算と人手の確保が問題になる</li> </ul>   |  |



# おおがたむら 未来会議

vol.3  
2017.8.18.Fri



## 大湊村で大切にしていきたい 価値観を話し合いました

8月18日(金)約30名の方にご参加いただき、「第3回おおがたむら未来会議」を開催しました。これから大湊村の将来像・方向性などを取りまとめた次期総合村づくり計画を、村民、役場職員が一緒になって、検討していく場となります。今回は、前回の意見交換の内容をふまえて、大湊村で「大切にしていきたい価値観」をテーマにして、意見交換しました。

### 前回振り返り

studio-L 小山氏

第2回目では、studio-L醍醐さんより「地域のビジョンを共有するためのキーワード探し」というテーマで、大湊村ならではのものさし、やり方を表すキーワードを探すことの大切さのお話がありました。意見交換では、大湊村の「今後大事になってくるキーワード」というテーマで、意見交換しながら、7つのグループに分かれて話し合いました。世代間での意見相違があったなど、様々な気づきがありました。

### 【日時】

8月18日(金)19:00~21:30

### 【場所】

大湊村役場2F会議室

### 【プログラム】

- ・開会のあいさつ
- ・前回の振り返り
- ・大湊村総合村づくり計画について
- ・事例紹介
- ・意見交換  
お互いの価値観を高め合い  
共有すること
- ・発表
- ・講評
- ・閉会のあいさつ

## 講 評

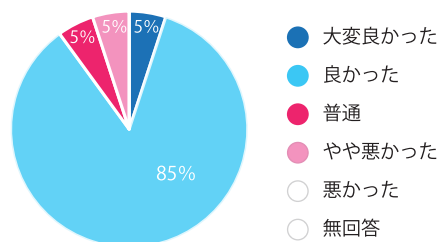
今回のWSでは、哲学的な価値観の共有をしました。皆さんの発表を聞いていると、良い方向性の意見が出ていたと感じました。今回、各テーブルから出た話は、実は今、日本社会全体で言われていることと、大潟村独自の視点があります。それぞれの視点に対して、将来に向けて大潟村ならではの糸口があるという局面も見受けられました。なにより、皆さん自身で育ててきた大地を大事にしたいと実感していることが素晴らしいし、今後の光となると思われました。

次回は、最終回です。最後の会を盛り上げていきましょう！



## アンケート結果

Q1. 今回のワークショップの感想を教えてください



Q2. 一番印象に残っていたことは何ですか

- ☐ 村外との交流を考えて、みなさんの価値観がわかったような気がします
- ☐ 村の特徴である三世代住居が多いが、形だけという現状があるところ（娘（子供夫婦）に気を配っているためだろうが、逆に協力しあえていない部分あり）
- ☐ 農業と仕事のテーブルでは、それぞれ「農業」、「行政」、「働き方」などの違った視点で討論したが、思ったよりも共通のキーワードが多く関連している部分が多かった
- ☐ 資源あるものをいかす
- ☐ 世代間の異なるそれぞれの意見でも理想としているものはある程度似ていたこと
- ☐ コミュニティについてたくさん話し合えたと思います
- ☐ 若い人のコミュニケーションについて考え方を聞いたこと
- ☐ 初めてなんですが、仲間に入りやすかった。自分の居場所、時間がテーマでしたが、自分の考え方が話しやすい雰囲気なのが良かったです

Q3. 自分にとって大事にしたい価値観は何か

- ☐ 多様性を認識すること
- ☐ コミュニケーション
- ☐ 人との関係性
- ☐ うまくライフワークバランスが取れること
- ☐ 家族が平和に暮らせること
- ☐ 若者同士の協力、つながり
- ☐ 家族、友達、地域との会話
- ☐ 出来ないことを理由にしないで同時進行で生活しながら趣味で楽しんで生きる！
- ☐ やはり家族の支え合いと友人とのつながり、お互いに支え合う優しさを大事にしたいと思いました
- ☐ 一言では言えない、択一は無理
- ☐ 村民の足（交通）
- ☐ 信頼

Q4. その他感想をご自由にお書きください。

- ☐ まだまだ革新に届いていない気がします
- ☐ 参加者が減っています。“参加したい”、“参加しなくちゃ”と思えるようなアプローチ、内容が必要なのではないかと思います
- ☐ 村づくりという大きな視点ですが、向かう方向が少しづつ見えてきているように感じました。でも自分が何をするかはまだです

## studio-L

studio-L（スタジオエル）は、代表の山崎亮が2005年に設立。地域の課題を地域に住むひとたちが解決するコミュニティデザインに携わる。これまでに、いえしま地域まちづくり、海士町総合復興計画など、まちづくりのワークショップや住民参画の総合計画づくりなどに携わっている。

＜問合せ先＞大潟村役場総務企画課 企画財政班

[住所] 〒010-0494 大潟村字中央 1-1 [電話] 0185-45-2111 [E-mail] g-kikaku@ogata.or.jp

説明...

## 大湊村総合村づくり計画について

studio-L 小山氏

大湊村の皆さん、役場職員と一緒に総合村づくり計画を作っていくことになります。studio-Lは計画づくりのお手伝いをします。総合村づくり計画は、一般的に、基本構想(将来像等)、基本計画(施策等)部分で構成され、村の今後8年間の方向性をまとめた計画書になります。

「おおがたむら未来会議(計4回予定)」として、大湊村の特徴、課題等を意見交換し、皆さんの想いを将来像、目標という形に整理し計画書に反映していきます。特に、今回話し合う「大切にしていきたい価値観」を軸に、村民同士で共有できるものさし、考え方を共有できるようにまとめていきます。

また、おおがたむら未来会議終了後も、大湊村の現在の暮らし方を改めて皆さんと一緒に調べて、次世代の子供たちに伝えていく資料を、別冊のような形でまとめていく予定です。



事例紹介...

## お互いの価値観を高め合い共有すること

studio-L 醍醐氏



村民と行政が一緒になって、これからの村のビジョンを作ろうとしている大湊村においても、これから8年間、何を大事に生きていくか、暮らしていくかという「価値観」を明確にして、行政と村民で共有しておくことが大事になってきます。

ブータンは、幸せの国と言われ、GNH(国民総幸福量)という公的な物差しを持っています。国全体でも80万人に満たない小国で、谷筋にいくつかの村があり、建物も伝統的なものしか建てません。今回、私がブータンへ視察に行って印象に残ったのが、経済的には豊かではないが、笑顔が絶えない国民性です。そこには、自分が豊かに生きるとはどういうことかをよく考えている人たち、言葉で表すとすれば、「足るを知る」という言葉が根底にあると感じました。

事例紹介は、兵庫県にある家島。人口5千人程度の島です。かつては、基幹産業として漁業と採石でにぎわっていた島でした。ところが、2005年あたりから、公共事業が減り、採石が必要な大型工事もなくなり、一気に人口が減ってしまいました。ただ、新しくつくる産業もやがては古い産業になるので、島の資源を再発見、再発掘するほう良いと、島の人たちと話し合っていく中で方向性を見出しました。その一つのプログラムとして、島外に住んでいる大学生と一緒に「島の資源を探索」ガイドブックを作ることに。そこからわかったのは、島人と島外の人が思う「島の魅力」は違うということ。そこから、より外の人とつながるため、島のためになることをするための特産品づくりに挑戦し、島外でPRすることを目指す人たちが出てきました。目指すのは、「100万人が1度訪れる島」より、「1万人が100回訪れる島」にしよう。大事なものは、ないものねだりではなく、あるものに価値を見出すこと、これが家島で生まれた「新たな価値観」でした。

大湊村も、今ある豊かさ、楽しさを見つめ直してみてもどうか。大湊村ならではの「豊かさ」や「楽しさ」を再発見し、それを活用して未来の大湊村のビジョンを作っていきましょう！



## 意見交換

# 大切にしていきたい価値観・考え方！

意見交換では、前回のワークショップで出されたキーワードを整理した6つのテーマ「農業・仕事」「教育・子育て」「自分の居場所・時間」「村外との交流」「地域内コミュニケーション」「住まい・生活スタイル」に分かれて、「大切にしていきたい価値観・考え方」を話し合いました。より話し合いたいテーマに分かれることで、参加者の皆さん自信の具体的な意見も出されて、価値観や考え方をお互い探りながら意見交換できました。



## 意見・発表内容抜粋

### 意見交換 大切にしていきたい価値観・考え方

#### ○ 農村・仕事

- ・広大で平坦な土地
- ・自分たちで作ってきた基盤
- ・家族と過ごす時間を大切にしたい！！
- ・安定した収入
- ・消費者の顔が見える⇒交流、つながりに
- ・前に進む原動力⇒楽しみ、学び、やりがいを得る
- ・自然とのつながり
- ・新しいチャレンジ、チャンス

#### ○ 教育・子育て

- ・自立、自律出来るような人になる
- ・自己有用感(周りから愛されている感)を持って欲しい
- ・育児中の人が交流でき、相談できる場が欲しい
- ・県立大の活用⇒大学生と心の交流
- ・祖父母とお嫁さんで子育てに関わらない⇒関わるれるように
- ・家族の大切さ、家庭を築く大切さ
- ・村の中で育ててあげたい
- ・Happy wife Happy family

#### ○ 自分の居場所・時間

- ・非日常ではひとりの時間に没頭したい
- ・日常では趣味の場・時間を確保したい  
⇒家では集中できないので、ほっとしたい
- ・家庭内は、日ごろから時間のやりくりをして、家族と話し合える空間、場所をつくりたい
- ・親しい友人と月1回くらいは外に出て遊びたい  
⇒毎日、外に出たら挨拶、朝昼晩家族と一緒になので
- ・多様性を認める

#### ○ 村外との交流

- ・多様な価値観を知る機会  
⇒高校まで同じ年代で過ごすが、違う価値観を体感する
- ・タコつぼに入らない
- ・お金を使わない楽しさを知ってもらう
- ・村の良さをいかす、村の良さを知ってもらう
- ・他の人の意見をいっぱい聞ける
- ・人とつながって仕事をつくる
- ・村の価値観を自分たちで理解する

#### ○ 地域内コミュニケーション

- ・顔と名前が一致するコミュニティ
- ・困っていたらみんな協力する、お互い様
- ・カギが必要ない暮らし
- ・楽しいことが一つではない多様性
- ・全国から人が集まった村
- ・地域内のコミュニティを大切にしてきた
- ・村全体の運動会が無くなってしまった
- ・地域内のイベントが子どもの頃の楽しい思い出

#### ○ 住まい・生活スタイル

- ・三世代が同じ敷地に住む
- ・親世代に頼ったり、教わったりしながら子育てする
- ・やりたければなんでもできる(スポーツも文化活動も)
- ・昔あった「ご近所づきあい」を今のスタイルにして、続けていきたい
- ・若い世代も自分たちなりのご近所づきあいを工夫してつくっていく
- ・かつてのような「大きな生活スタイル」でいいのだろうか！？



# おおがたむら 未来会議

vol.4

2017.10.10.Tue



## ワークショップの中間報告を行いました！

10月10日(金)約30名の方に参加いただき、「第4回おおがたむら未来会議」を開催しました。これからの大潟村の将来像・方向性などを取りまとめた次期総合村づくり計画を、村民、役場職員が一緒になって、検討していく場となります。今回は、これまでのワークショップの中間報告とその結果を踏まえて、「住み継いでいくためにはどうしたらよいか」をテーマに、意見交換しました。

### 前回振り返り

studio-L 小山氏

第3回目では、studio-L醍醐さんより「地域のビジョンを共有するためのキーワード探し」というテーマで、大潟村ならではのものさし、やり方を表すキーワードを探すことの大切さのお話がありました。意見交換では、大潟村の「今後大事になってくるキーワード」というテーマに、意見交換しながら、7つのグループに分かれて話し合いました。世代間で意見相違があったなど、様々な気づきがありました。

### 【日時】

10月10日(火)19:00~21:30

### 【場所】

大潟村役場2F会議室

### 【プログラム】

- ・開会のあいさつ
- ・前回の振り返り
- ・ワークショップの分析、中間報告
- ・意見交換
- 「住み継いでいくためにはどうすればよいか」
- ・発表
- ・講評
- ・閉会のあいさつ

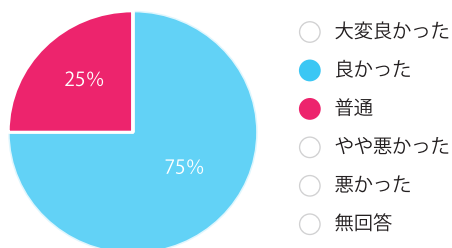
## 講評

今回は、これまでのワークショップの中間報告として、これまでの意見を整理した内容を冒頭に説明しました。大潟村で創られてきた資源、文化を次の世代も住み継いでいくことを中心にまとめていくのはどうかと提案しました。意見交換では、4つの資本をテーマにして、活発に意見交換していただきました。3回に分けて、話し合うメンバーを変えながら進めましたが、様々な意見が出てきました。今回の意見を、改めて我々や事務局で再整理しながら、計画書としてまとめていきます。ワークショップとしては、最終回となりましたが、引き続きご協力のほど、よろしくお願いします！



## アンケート結果

### Q1. 今回のワークショップの感想を教えてください



### Q2. 一番印象に残っていたことは何ですか

- 世代によって違うということ、土地を有効利用する
- 小グループだけでなく結果的に参加者ほぼ全員の意見を見ることができた点
- ワークカフェの手法、今回はもっと切り込んだ話題でした
- 排水路が人の体に流れる血。大切な村です。
- 3つの移動で時間が足りなかった。2つでも、少し必要なものが見えてきた
- 意見がもっと深まって欲しい
- 村について語ることはたくさんあるなあと思いました
- 参加者に発表資料を配付して欲しかった(情報公開)、進行に難点あり
- 文化の発展

### Q3. 住み継いでいくために必要なことは何ですか

- 村民がこの村が好きであること、この村の伝統は意見を戦わせること
- 若い世代の村民がしっかり外と関わろうとすること
- 産業、基盤(堤防、排水路、水質)近所づきあい、交流、継承
- お互いの価値観をまずは知ろう！受け止めてみよう！！
- お陰様、お互い様
- 生かされている自覚を高めること、脆弱な基盤の上に成り立っている資本(経済力)
- 村が元気なこと

### Q4. その他感想をご自由にお書きください。

- 自分自身の村全体の構想を作って、一人ひとりの構想や話し合い、村の魅力を発展させたい
- 子どもたちのための施設をもっと充実したものとした
- 職員の方たちと話し合いが出来、有意義でした。多様性を認めるという共有が進んだと思いました。でも、言葉を変えれば、自由という名の自分勝手な部分を許すだけでは、家、コミュニティ、既存の団体ひいては村の存続は難しいなと思いました



studio-L(スタジオエル)は、代表の山崎亮が2005年に設立。地域の課題を地域に住むひとたちが解決するコミュニティデザインに携わる。これまでに、いえしま地域まちづくり、海士町総合復興計画など、まちづくりのワークショップや住民参画の総合計画づくりなどに携わっている。

＜問合せ先＞大潟村役場総務企画課 企画財政班

[住所] 〒010-0494 大潟村字中央1-1 [電話] 0185-45-2111 [E-mail] g-kikaku@ogata.or.jp

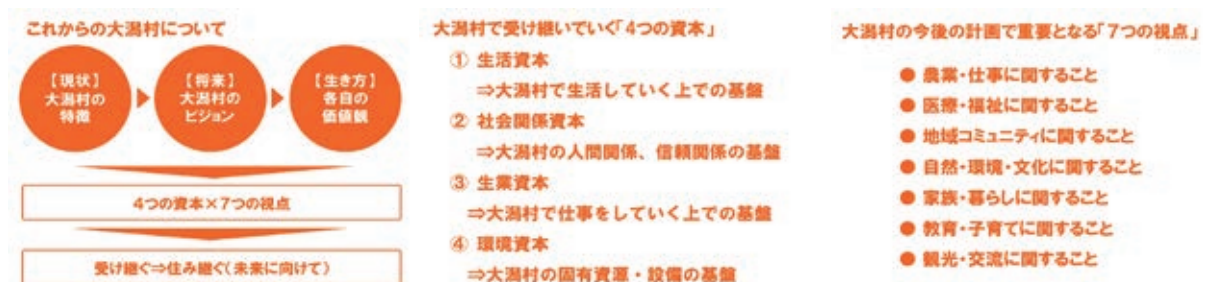
## おおがたむら未来会議の中間報告

studio-L 醍醐氏

これまでのおおがたむら未来会議では、第1回目「大潟村の現状、特徴と住民参加型で計画をつくること」の意義の確認、第2回目「大潟村の将来ビジョンを作るための考え方やキーワードの抽出の仕方」、第3回目「大潟村でこれから暮らしていく中で大事にしたい考え方や価値観」の抽出を行ってきました。

また、国内外の社会情勢の紹介として、世界的に人間の寿命の延長(今の10歳の半数が107歳まで生きるという予測が出ている)によって、今までの人生設計が通用しない時代に入ってきていることを確認してきました。また、大潟村に関連したトピックとしては、日本の米の消費量の減少、ライフスタイルの多様化など、その他にもいくつかの地域の事例紹介もしました。このように色々な社会情勢、各地域の状況を押さえながら、これからの村づくりについて意見交換を進めてきました。

未来会議での意見交換の内容をふまえて、2つの方向性から整理してみました。一つは、大潟村の今後10年、50年、受け継いでいくべき「資本」という観点。資本という言葉は、一般的な用法として、事業活動を行うための元手となる金、社会学では社会的ネットワークにおける人間関係、経済学では企業・個人の双方の経済活動が円滑に進められるために作られる基盤を指しています。この資本という概念を用いて、大潟村の特徴を4つの資本(生活資本、社会関係資本、生業資本、環境資本)に整理しました。これらの各種資本を大切にしながら、今後も大潟村に暮らしていくことを将来像の基盤に置きました。一方で、意見の傾向を7つ整理して、こちらも今後10年、50年、受け継いでいくべき「視点」として導きました。



これらの「資本」、「視点」の関係性を元にしながら、大潟村の将来像のキャッチフレーズとして、「住み継がれる村」としました。この言葉には、日本全体で社会・経済環境の変化や価値観が多様化している中で、地域・村民が大切に守っていききたい大潟村の特徴を4つの資本、重要とされる7つの視点という言葉に集約し、これらの資本・視点を軸にしながら、次の100年周年に向けて大潟村で暮らしていくことを表現しています。また、入植してから50年が過ぎて、村内の暮らし方の変化、世代間にある見えない壁が生まれつつある中で、今一度、自分たちで助け合いながら村全体で一つになって取り組んでいくための方向性の位置づけもあります。

そして、本村で学び育った子どもたちが帰ってきたい、帰って来られるまちづくりを行っていききたい想いもあります。今後も大潟村で暮らすことで得られる豊かさを再認識し、大潟村というまちに暮らすことの誇りや愛着を醸成していくと共に、これまで大切にしてきた大潟村の特徴を今後も子供たちのために維持・活用し、資源を有効活用しながら持続可能な村になることを表明する意味合いも込めています。

本日、中間報告として説明した表現等は、これまでの意見交換の内容を再整理し、将来像の仮案として説明しました。まだ完成の手前の状態の内容となっています。今後、役場庁内、審議議会での議論を経て、第2期総合村づくり計画として作成を進めていきます。また、村民の皆さんにも、見ていただけるようにデザイン面での修正を加えていきます。最終的には村議会での承認を経て、計画書の完成となります。

### 基本構想 - 将来像(案)

#### 住み継がれる村(仮)

大潟村は、他の日本の農村にはない魅力的な特徴が沢山ある。それは、国策によって建設された平野市に入植してきた第一世代が50年かけて作り上げてきた資本(価値)に基づいている。社会状況がどう変化しようとも、住民同士が支え合いながら、これらの資本を受け継いでいく。そして、次の50年も住民によって「住み継がれる村」になることを将来像とし、必要を取り組みを実行していきます。

## 意見交換

# 住み継いでいくために必要な目標！

意見交換では、前回のワークショップで出されたキーワードを参考にしながら、特徴として整理した「生活資本」「社会関係資本」「生業資本」「環境資本」に分かれて、大潟村で「住み継いでいくためにどうすればよいか」をテーマに、それぞれの理想・目標を話し合いました。関心あるテーマに移動（3回）しながら、参加者の皆さん自身の具体的な事例、ストーリーも出されて、活発に意見交換できました。



## 意見・発表内容抜粋

### 意見交換 住み継いでいくために必要な目標

#### ○ 生活資本※

##### <子育て>

- ・周辺の学校と一緒に活動する→多様性の確保
- ・村外との交流をもっと進める→進路、選択肢の確保
- ・親に子育て教育する場所や機会を与える
- ・子どもを好きなだけ持てるようにする

##### <福祉>

- ・困った時の相談窓口の充実
- ・グループホームの設置
- ・3世代、4世代コミュニケーションが自然に取れる居場所の構築、老人ホーム、図書、保育園の複合施設

##### <食文化>

- ・大潟村を知る、誇れる環境や施設を維持しつづける
- ・米文化や伝統食の継
- ・新しい米食文化の発信

##### <交通手段>

- ・公的な移動手段の充実
- ・交通弱者への交通ネットワークの確保

#### ○ 社会関係資本※

##### <地域行事>

- ・住区の行事、年代関係なく参加できる
- ・自治会活動→それぞれの自治意識もって住みよい環境を作る

##### <支え合い>

- ・開放的な人間関係の構築
- ・弱者の社会参加
- ・防災意識、隣近所同士の声かけ、助け合い⇔福祉につながる
- ・福祉理解促進 認知症、障がい者などの講座

##### <交流>

- ・周辺地域を含めての交流促進

#### ○ 生業資本※

##### <農業>

- ・農地の規模拡大
- ・安定した収入の確保
- ・常に新たな作物の研究
- ・各種施設（育苗、たい肥など）の充実
- ・消費者の意識調査、世界的な視野を持つ

##### <農業以外の産業>

- ・子どもたちが帰ってきた時に就く新しい仕事を作る
- ・農産物の新しい加工品販売
- ・農福連携
- ・女性がボランティアで行っている福祉活動を仕事に

##### <土地>

- ・土地をもっと自由に使えるように（私有地がない）
- ・膨大な未利用地に農業以外の新しい産業を構築する

#### ○ 環境資本※

##### <農業・生活基盤>

- ・幹線排水路を浚渫しなおす
- ・堤防をなおす
- ・農業施設の更新
- ・八郎潟の水質改善

##### <自然環境>

- ・子どもが遊べる環境がある
- ・進化する環境

##### <災害>

- ・洪水、なだれに強い

##### <エネルギー>

- ・エネルギーの自給率100%を目指す

#### ※各資本 例

生活資本 : 家族、子育て、教育、文化など

社会関係資本: 近所づきあい、支え合い、地域行事、福祉、防災など

生業資本 : 仕事、起業、ワークスタイルなど

環境資本 : 土地、自然エネルギー、各施設の活用など

## 第2期大湯村総合村づくり計画

- 発 行 平成30年3月
- 発行者 秋田県大湯村

